
平成24年3月期

第2四半期決算説明 参考資料

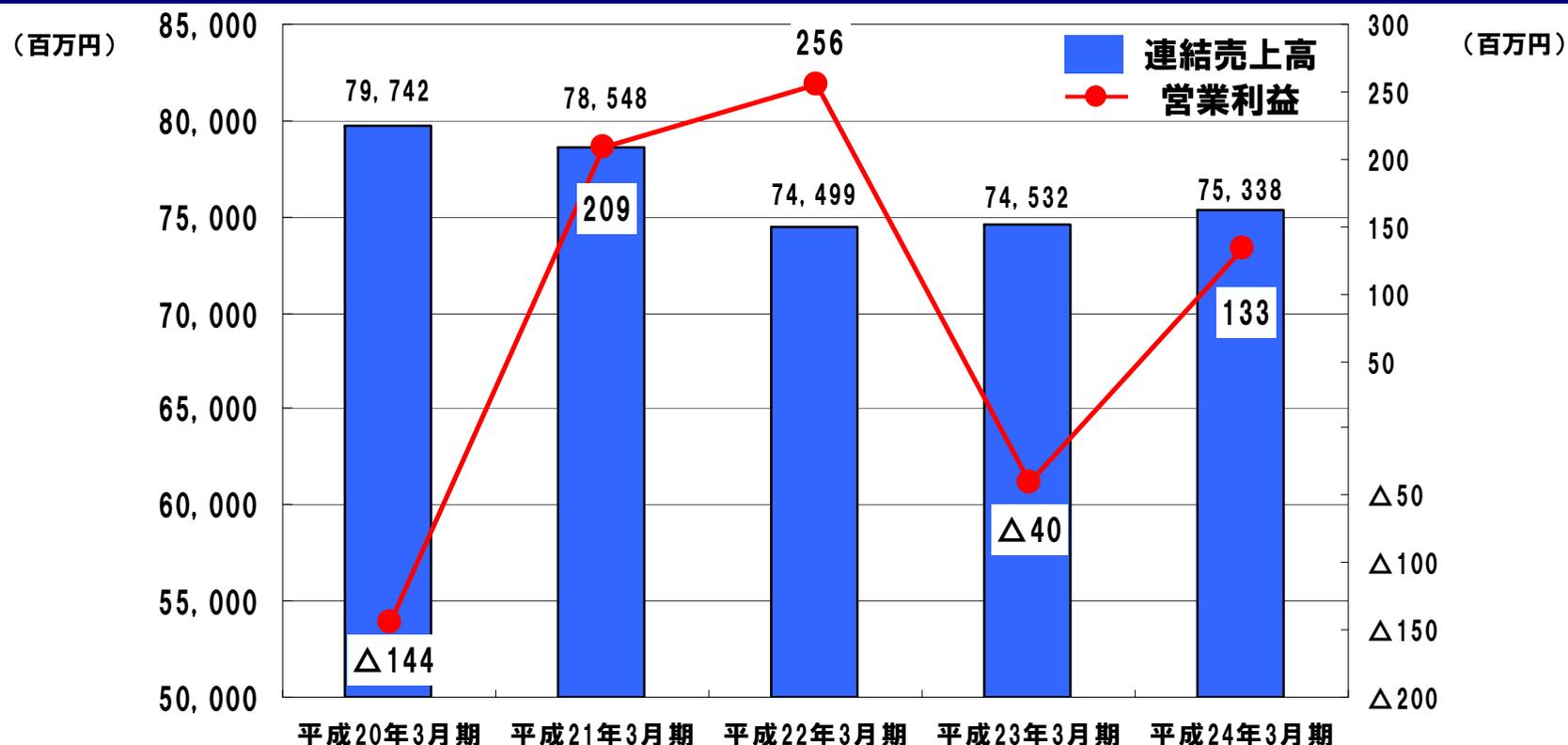
平成23年11月8日

株式会社 マルイチ産商

目 次

1. 第2四半期累計 連結売上高及び営業利益の推移	…	P3
2. 平成24年3月期の連結業績推移	…	P4
2. 株主資本・有利子負債・自己資本比率の推移	…	P5
3. 連結キャッシュフローの推移	…	P6
4. 連結ROAの推移	…	P7
5. 水産事業セグメントの売上高及び営業利益の推移	…	P8
6. 一般食品事業セグメントの売上高及び営業利益の推移	…	P9
7. 畜産事業セグメントの売上高及び営業利益の推移	…	P10

第2四半期累計 連結売上高及び営業利益の推移



当第2四半期連結累計期間は、畜産事業およびフードサービス事業が大きく伸長したことから、前年同期に対して8億5百万円の増収となりました。利益は、依然食品市場の川上インフレ・川下デフレの傾向が続いていますが、付加価値提案営業の積み重ねもあり、利益率低下を最小限に留めた中、コスト削減も推し進め、営業利益は1億73百万円の増益を達成しました。

平成24年3月期の連結業績推移

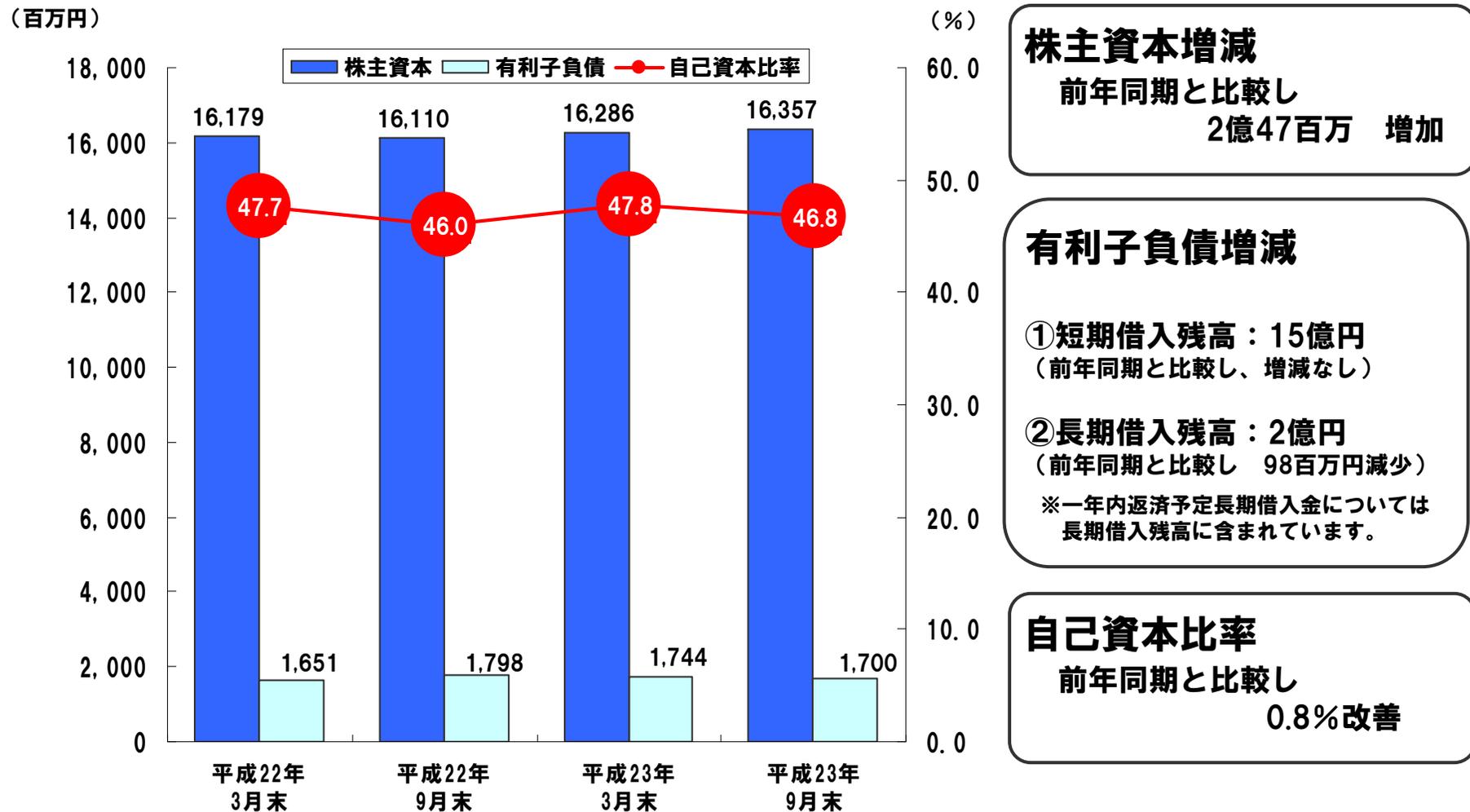
第1・第2四半期の実績

単位：百万円

	第1四半期			第2四半期			上期累計			通期
	実績	前年比	前年増減	実績	前年比	前年増減	実績	前年比	前年増減	公表 予算
売上高	36,251	100.4%	127	39,087	101.8%	677	75,338	101.1%	805	150,500
営業利益	-99	165.4%	64	233	188.4%	109	133	増173	173	440
経常利益	29	増71	71	310	156.0%	111	339	216.7%	182	800
当期純利益	-9	321.3%	20	172	174.5%	73	162	235.6%	93	450

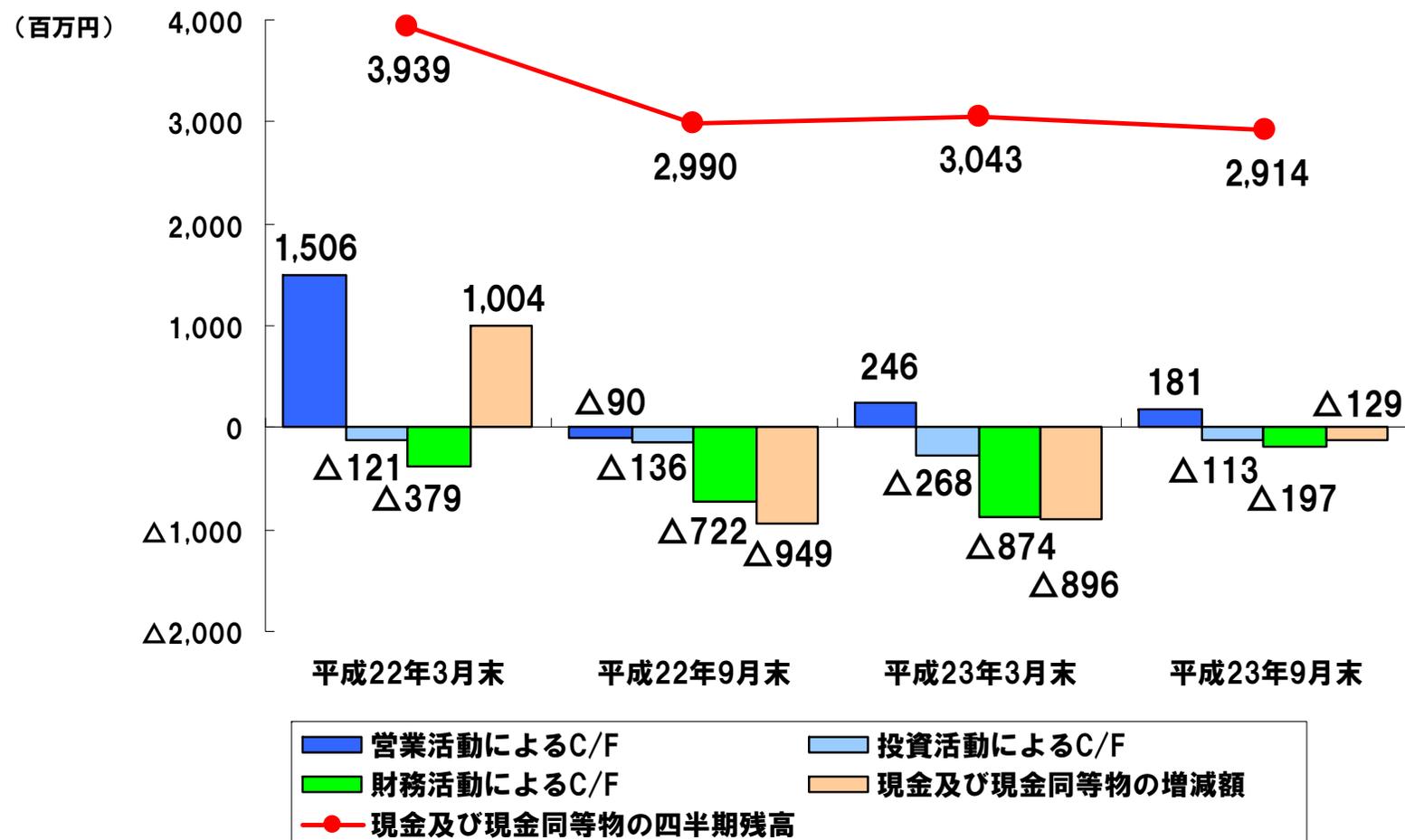
平成24年3月期の通期の業績予想につきましては、依然として不透明な経営環境が継続することから、変更はございません。

株主資本・有利子負債・自己資本比率（連結）



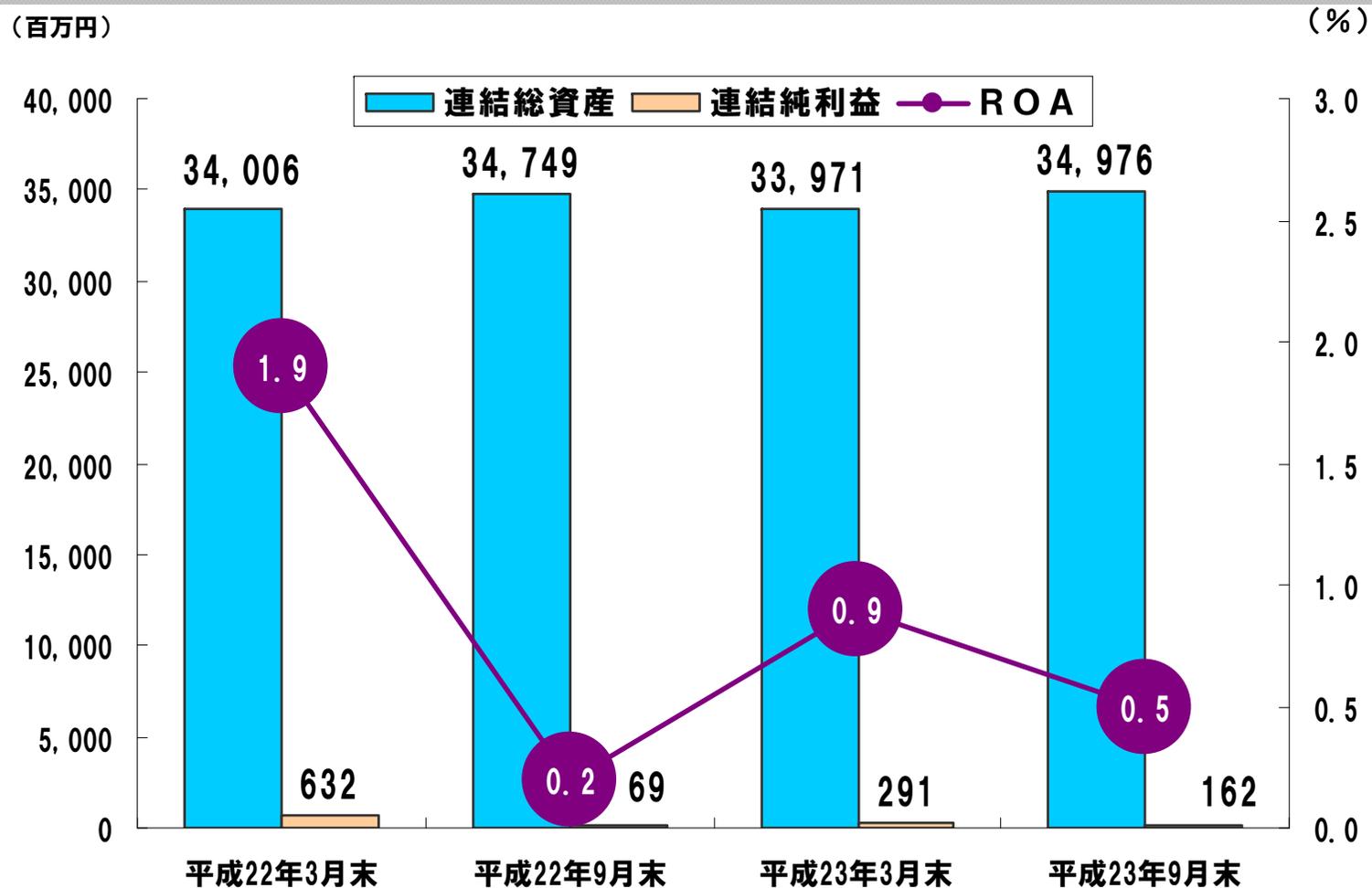
連結キャッシュフローの推移

営業活動によるキャッシュフローは、利益が増加したことから前年同期に比較し、2億71百万円増加しました。財務活動によるキャッシュフローは、長期借入金の返済額の減少により、前年同期に対して5億25百万円の増加となりました。



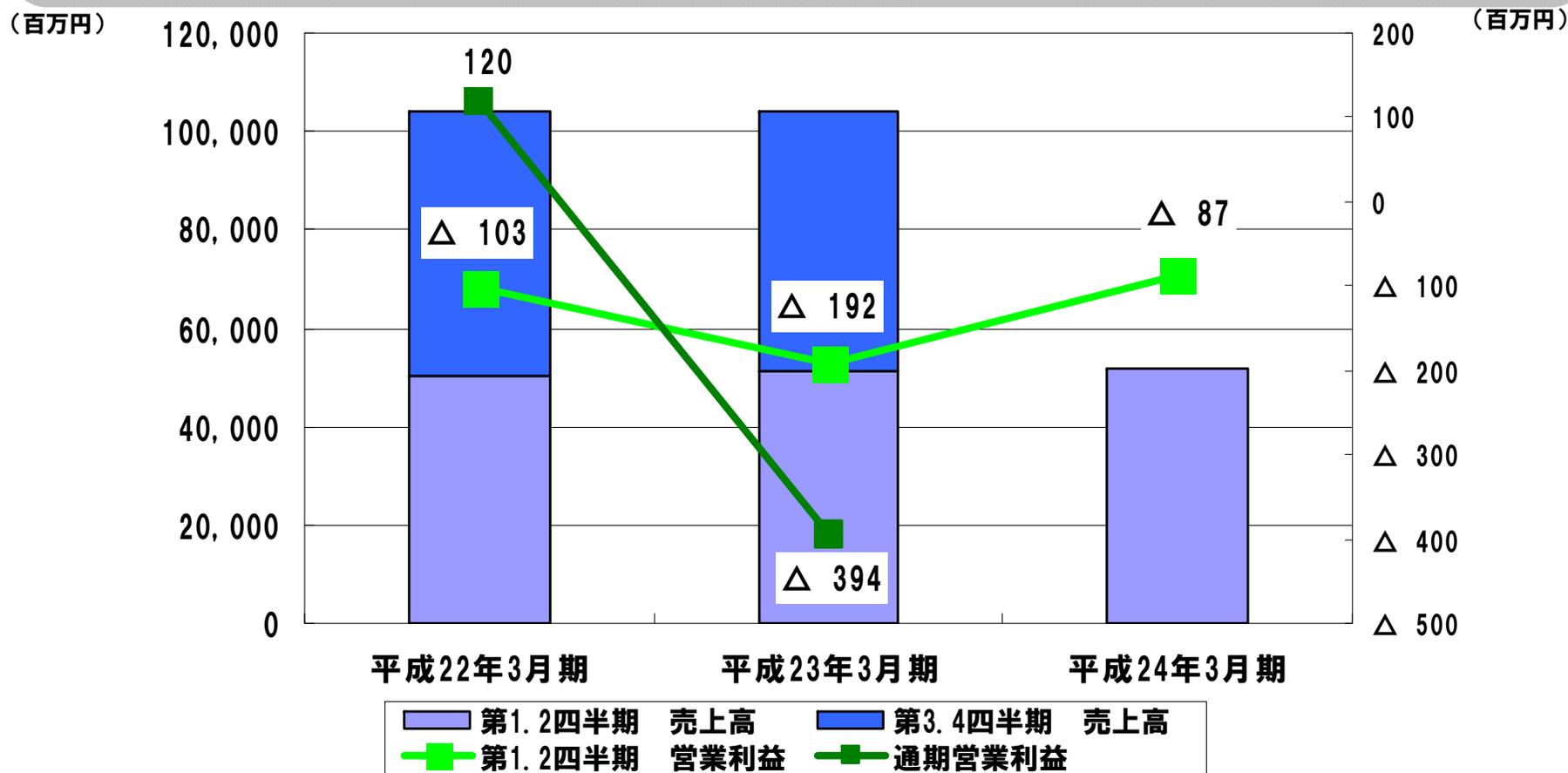
連結ROAの推移

連結総資産が売掛金と在庫の増加により、前年同期と比較し2億27百万円増加しましたが、連結純利益が増加したことから、ROAは0.3ポイントの増加となりました。



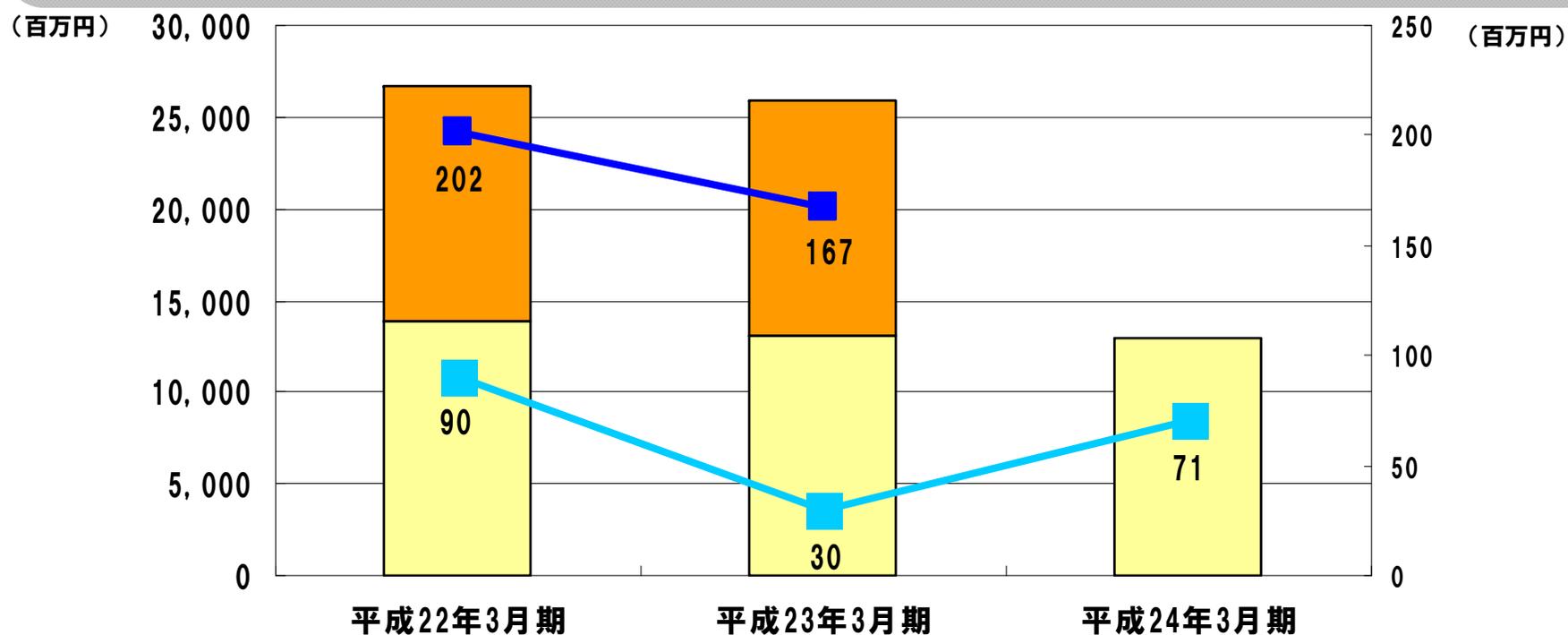
水産事業セグメントの売上高及び営業利益の推移

売上高は、商品調達面で震災の影響はありましたが、生産者との連携による調達機能の拡充と顧客基点の商品開発を推進しました。また、フードサービス事業が大きく伸長したことから、前年同期に関して1億94百万円の増収となりました。利益は、販売数量の減少と仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁できなかったことにより、売上総利益額が減少しましたが、管理費のコスト削減を進めたことから、営業損失は同1億5百万円の改善となりました。



一般食品事業セグメントの売上高及び営業利益の推移

売上高は、生鮮品と連動したクロスマーチャンドライジングによる売場展開や地域特性に合わせたオリジナル商品の開発を積極的に進めたものの、震災直後の特需の反動や夏場の不安定な天候の影響を受け、前年同期に対して97百万円の減収。利益は、物流センターや事務部門におけるICTを活用した効率化を推進し、販売費および一般管理費の一層の削減を図ったことから、営業利益は同40百万円の増益となりました。



第1.2四半期 売上高
 第3.4四半期 売上高
 第1.2四半期 営業利益
 通期営業利益

畜産事業セグメントの売上高及び営業利益の推移

売上高は、牛肉が震災による影響を受け低迷を余儀なくされたものの、豚肉の販売が大きく伸長し、セグメント全体では前年同期に対して6億91百万円の増収。利益は、売上高の増加による売上総利益額の増加と、システムを活用した生産から加工、販売に至る一連のサプライチェーンマネジメントの革新により生産性の向上が図られたことから、営業利益は同43百万円の増益となりました。

